



平成31年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年8月8日

上場会社名 サイボー株式会社
 コード番号 3123 URL <https://www.saibo.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 飯塚 剛司
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 藤井 孝男
 四半期報告書提出予定日 平成30年8月9日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 TEL 048-267-5151

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第1四半期の連結業績(平成30年4月1日～平成30年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第1四半期	2,347	3.6	△188	—	△164	—	△140	—
30年3月期第1四半期	2,266	△3.1	252	△10.7	276	0.5	177	△60.4

(注)包括利益 31年3月期第1四半期 △100百万円 (—%) 30年3月期第1四半期 204百万円 (△50.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第1四半期	△10.67	—
30年3月期第1四半期	13.40	13.40

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年3月期第1四半期	27,587	16,303	51.8
30年3月期	27,840	16,536	52.2

(参考)自己資本 31年3月期第1四半期 14,289百万円 30年3月期 14,529百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期	—	7.00	—	10.00	17.00
31年3月期	—	—	—	—	—
31年3月期(予想)	—	7.00	—	7.00	14.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注)平成30年3月期期末配当金の内訳 普通配当7円00銭 記念配当3円00銭

3. 平成31年3月期の連結業績予想(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	4,493	5.2	△474	—	△455	—	△405	—	△30.72
通期	8,552	2.9	△186	—	△84	—	△152	—	△11.53

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年3月期1Q	14,000,000 株	30年3月期	14,000,000 株
② 期末自己株式数	31年3月期1Q	816,007 株	30年3月期	816,007 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	31年3月期1Q	13,183,993 株	30年3月期1Q	13,235,485 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済・財政政策を背景に、企業収益や雇用・所得環境が改善し緩やかな回復基調がみられたものの、海外の政治、経済情勢の不確実性により、景気の先行きは不透明な状況が続きました。

当社グループにおける事業環境は、繊維事業では就労人口の増加等によるユニフォーム業界の堅調な商いに支えられたものの、百貨店を中心とした衣料品の伸び悩みが依然として続いており、厳しい状況で推移しました。一方、不動産活用事業は、大型商業施設や病院施設からの安定した賃貸収入を維持しており、営業収益の安定化が図られております。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は23億47百万円（前年同期比3.6%増）となりました。営業損益は事業別セグメントの概況の② 不動産活用事業に記載のとおり、大型商業施設「イオンモール川口」の賃貸借契約終了の決定により費用が増加したことから、前年同期と比べ4億40百万円利益が減少して1億88百万円の損失となり、経常損益は前年同期と比べ4億41百万円利益が減少して1億64百万円の損失となりました。親会社株主に帰属する四半期純損益につきましては前年同期と比べ3億17百万円利益が減少して1億40百万円の損失となりました。

事業別セグメントの概況は次のとおりであります。なお、事業別セグメントの売上高及び営業利益又は損失は、セグメント間の内部取引消去前の金額であります。

① 繊維事業

マテリアル部は、輸入原糸販売の産地需要が回復したことから売上は前年並みに推移し、ポリエステル生地の販売も生機を中心に伸び、総じて増収になりました。一方、仕入れ価格の上昇により減益となりました。

アパレル部は、昨年に引き続きユニフォーム業界が安定している中、法人ユニフォームの直需と百貨店からの新規物件受注により売上は前年並みに推移しました。一方、物流経費の上昇により減益となりました。

カジュアル部は、キャンプ関連商品及びOEM商品の販売が伸び増収となり、営業損失が縮小しました。

刺繍レースを扱うフロリア(株)は、服地レース及び付属レースの売上が秋冬物を中心に伸びたことから増収となり、営業損失が縮小しました。

この結果、繊維事業の売上高は14億15百万円（前年同期比5.1%増）、営業利益は20百万円（前年同期比217.7%増）となりました。

② 不動産活用事業

「イオンモール川口前川」は、近隣の大型商業施設に比べ「回遊型ショッピング」が出来るというお客様の利便性と近隣住民の生活環境にあった専門店選びが評価されており、さらに隣接地に病院施設を建設、賃貸することにより不動産活用事業は安定した収益基盤を維持しております。

「イオンモール川口」は開店から34年経過しており、イオンモール(株)からの申し出により建物の老朽化及び設備状況や施設運用状況などの協議を重ね総合的に判断し、賃貸借契約が平成30年9月30日をもって終了します。これにより当該物件の残存耐用年数を賃貸借契約が終了する平成30年9月30日までに減価償却が完了するように見直し、建物等の残存価格及び資産除去債務に対応する撤去費用を賃貸借契約が終了する平成30年9月30日までに費用処理するために加速償却を実施しております。以上により、「イオンモール川口」に係る費用は従来に比べて4億60百万円増加しております。再開発については当該跡地を含む周辺一帯をイオンモール(株)と共同で新たな商業施設としての検討を進めております。

その他未活用不動産の活用については、収益性はもちろん地域社会に貢献できる施設を検討しております。

この結果、不動産活用事業の売上高は6億75百万円（前年同期比0.4%増）、営業損益は4億22百万円利益が減少して2億円の損失となりました。

③ ゴルフ練習場事業

埼玉興業(株)が営む「川口・黒浜・騎西の各グリーンゴルフ」練習場のうち、最大規模の川口グリーンゴルフ練習場において、打席設備の一新や稼働システムの更新を進めている影響から、入場者が減少し減収となり、また、これらの工事の一部を費用計上したため減益となりました。

この結果、ゴルフ練習場事業の売上高は2億33百万円（前年同期比3.3%減）、営業損益は33百万円利益が減少して10百万円の損失となりました。

④ その他の事業

ギフト事業部は、観葉植物の新規レンタル契約獲得と慶弔用の花卉ギフト販売に注力しましたが減収となりました。一方で経費を削減し営業損失が縮小しました。

神根サイボー(株)のインテリア施工事業は、一般住宅施工は増えたものの、大口物件の受注の減少を埋めることができず、減収減益となりました。

この結果、その他の事業の売上高は1億9百万円(前年同期比61.7%減)、営業利益は1百万円(前年同期比94.9%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 財政状態の分析

総資産は、繊維事業の好調な受注に伴う受取手形及び売掛金やたな卸資産が増加したものの、「イオンモール川口」に係る建物等の残存価額や資産除去債務に対応する撤去費用を平成30年9月30日までに償却が完了するように加速償却している影響から、前連結会計年度末に比べ2億53百万円減少して275億87百万円となりました。

負債は、支払手形及び買掛金が増加したものの、借入金の返済による減少により、前連結会計年度末に比べ19百万円減少して112億84百万円となりました。

純資産は、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上や前連結会計年度末の配当金の支払により、前連結会計年度末に比べ2億33百万円減少して163億3百万円となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は前連結会計年度末に比べ1億57百万円減少して22億77百万円となりました。

営業活動の結果、得られた資金は前第1四半期連結累計期間に比べ2億47百万円増加して2億18百万円となりました。これは主に税金等調整前四半期純損失の計上や売上債権の増加があったものの、加速償却により減価償却費が増加したことや法人税等の支払額が減少したこと等によるものであります。

投資活動の結果、支出した資金は前第1四半期連結累計期間に比べ1億2百万円減少して88百万円となりました。これは主に有価証券の売却による収入が減少したものの、有形固定資産や投資有価証券の取得による支出も減少したこと等によるものであります。

財務活動の結果、支出した資金は前第1四半期連結累計期間に比べ38百万円増加して2億86百万円となりました。これは主に前連結会計年度末の配当金に記念配当を含めて支払ったこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年5月15日の決算短信で発表いたしました、連結業績予想から変更は行っておりません。

なお、前連結会計年度に「イオンモール川口」の賃貸借契約終了が平成30年9月30日に決定したことから、当該物件の残存価額及び資産除去債務に対応する撤去費用を同月までに減価償却が完了するように加速償却(減価償却費の追加計上)を行っております。この影響から第2四半期連結累計期間までは、損失の増加を見込んでおります。平成30年10月以降は「イオンモール川口」の賃貸収入が無くなりますが、前述しました加速償却を行わないことで、収益の確保ができる見込みであります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,695,080	2,537,517
受取手形及び売掛金	960,583	1,221,213
有価証券	50,260	39,656
商品及び製品	1,190,307	1,201,147
仕掛品	15,226	18,170
原材料及び貯蔵品	32,272	34,691
その他	225,850	246,174
流動資産合計	5,169,581	5,298,571
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	9,726,677	9,119,360
土地	6,929,229	6,929,229
その他（純額）	640,929	722,545
有形固定資産合計	17,296,835	16,771,134
無形固定資産	14,518	27,213
投資その他の資産		
投資有価証券	4,716,200	4,721,976
その他	670,107	804,971
貸倒引当金	△26,485	△36,485
投資その他の資産合計	5,359,822	5,490,463
固定資産合計	22,671,176	22,288,810
資産合計	27,840,757	27,587,382

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	577,705	663,939
短期借入金	50,000	80,000
1年内返済予定の長期借入金	536,136	504,885
未払法人税等	18,753	73,338
賞与引当金	59,618	25,626
役員賞与引当金	6,350	1,587
1年内返還予定の預り保証金	2,733,218	2,719,270
その他	331,607	372,845
流動負債合計	4,313,389	4,441,492
固定負債		
長期借入金	1,795,942	1,672,321
役員退職慰労引当金	243,968	247,994
退職給付に係る負債	160,331	164,125
長期預り保証金	3,877,716	3,866,358
資産除去債務	794,127	794,979
その他	118,770	97,033
固定負債合計	6,990,855	6,842,811
負債合計	11,304,244	11,284,303
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,402,000	1,402,000
資本剰余金	870,956	870,956
利益剰余金	12,041,071	11,769,935
自己株式	△496,828	△496,828
株主資本合計	13,817,198	13,546,063
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	750,152	780,726
退職給付に係る調整累計額	△37,884	△37,332
その他の包括利益累計額合計	712,267	743,393
新株予約権	6,595	6,841
非支配株主持分	2,000,450	2,006,780
純資産合計	16,536,512	16,303,078
負債純資産合計	27,840,757	27,587,382

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
売上高	2,266,539	2,347,138
売上原価	1,594,999	2,147,199
売上総利益	671,540	199,938
販売費及び一般管理費	418,838	388,021
営業利益又は営業損失(△)	252,701	△188,083
営業外収益		
受取利息	3,105	877
受取配当金	38,822	46,502
デリバティブ評価益	1,292	14,626
その他	13,417	3,623
営業外収益合計	56,636	65,629
営業外費用		
支払利息	11,930	8,864
持分法による投資損失	7,116	21,727
貸倒引当金繰入額	-	10,000
その他	13,445	1,307
営業外費用合計	32,492	41,898
経常利益又は経常損失(△)	276,846	△164,352
特別利益		
新株予約権戻入益	8,972	-
特別利益合計	8,972	-
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	285,818	△164,352
法人税、住民税及び事業税	58,953	82,562
法人税等調整額	19,160	△116,320
法人税等合計	78,114	△33,758
四半期純利益又は四半期純損失(△)	207,704	△130,593
非支配株主に帰属する四半期純利益	30,383	10,074
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	177,320	△140,668

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	207,704	△130,593
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△7,074	22,519
繰延ヘッジ損益	573	—
持分法適用会社に対する持分相当額	3,029	7,593
その他の包括利益合計	△3,470	30,113
四半期包括利益	204,233	△100,480
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	174,874	△109,542
非支配株主に係る四半期包括利益	29,358	9,062

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	285,818	△164,352
減価償却費	171,377	620,648
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△157	10,000
賞与引当金の増減額(△は減少)	△30,994	△33,992
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△4,290	△4,762
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	11,311	3,793
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	3,631	4,026
受取利息及び受取配当金	△41,927	△47,379
支払利息	11,930	8,864
持分法による投資損益(△は益)	7,116	21,727
有価証券運用損益(△は益)	△9,373	-
売上債権の増減額(△は増加)	△38,941	△260,629
たな卸資産の増減額(△は増加)	△139,752	△16,203
仕入債務の増減額(△は減少)	57,292	86,233
預り保証金の増減額(△は減少)	△24,587	△25,306
その他	△100,268	914
小計	158,182	203,582
利息及び配当金の受取額	44,127	49,645
利息の支払額	△11,758	△8,864
法人税等の支払額	△219,738	△26,237
営業活動によるキャッシュ・フロー	△29,186	218,126
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の売却による収入	86,448	30,000
有形固定資産の取得による支出	△233,679	△90,492
投資有価証券の取得による支出	△106,423	△60,337
投資有価証券の売却による収入	30,001	-
定期預金の増減額(△は増加)	4,948	148
貸付けによる支出	-	△700
貸付金の回収による収入	1,410	1,660
その他	26,470	31,013
投資活動によるキャッシュ・フロー	△190,823	△88,708
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	180,000	190,000
短期借入金の返済による支出	△160,000	△160,000
長期借入金の返済による支出	△144,852	△154,872
配当金の支払額	△91,208	△130,467
非支配株主への配当金の支払額	△2,732	△2,732
その他	△29,980	△28,762
財務活動によるキャッシュ・フロー	△248,773	△286,833
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△468,783	△157,414
現金及び現金同等物の期首残高	3,037,437	2,434,695
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,568,653	2,277,280

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント				その他 (千円) (注)1	合計 (千円)	調整額 (千円) (注)2	四半期連 結損益計 算書 計上額 (千円) (注)3
	繊維事業 (千円)	不動産活用 事業 (千円)	ゴルフ 練習場 事業 (千円)	計 (千円)				
売上高								
外部顧客への売上高	1,344,771	604,599	241,263	2,190,633	75,905	2,266,539	—	2,266,539
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,100	67,582	—	69,682	209,837	279,519	△279,519	—
計	1,346,871	672,181	241,263	2,260,316	285,743	2,546,059	△279,519	2,266,539
セグメント利益	6,607	222,613	22,986	252,207	23,877	276,085	△23,383	252,701

(注) 1 「その他」区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ギフト事業、インテリア施工事業を含んでおります。

2 調整額は、セグメント間取引消去であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント				その他 (千円) (注)1	合計 (千円)	調整額 (千円) (注)2	四半期連 結損益計 算書 計上額 (千円) (注)3
	繊維事業 (千円)	不動産活用 事業 (千円)	ゴルフ 練習場 事業 (千円)	計 (千円)				
売上高								
外部顧客への売上高	1,413,701	607,548	233,210	2,254,460	92,678	2,347,138	—	2,347,138
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,100	67,582	29	69,711	16,847	86,559	△86,559	—
計	1,415,801	675,130	233,239	2,324,172	109,525	2,433,697	△86,559	2,347,138
セグメント利益 又は損失(△)	20,991	△200,123	△10,905	△190,037	1,224	△188,812	729	△188,083

(注) 1 「その他」区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ギフト事業、インテリア施工事業を含んでおります。

2 調整額は、セグメント間取引消去であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。